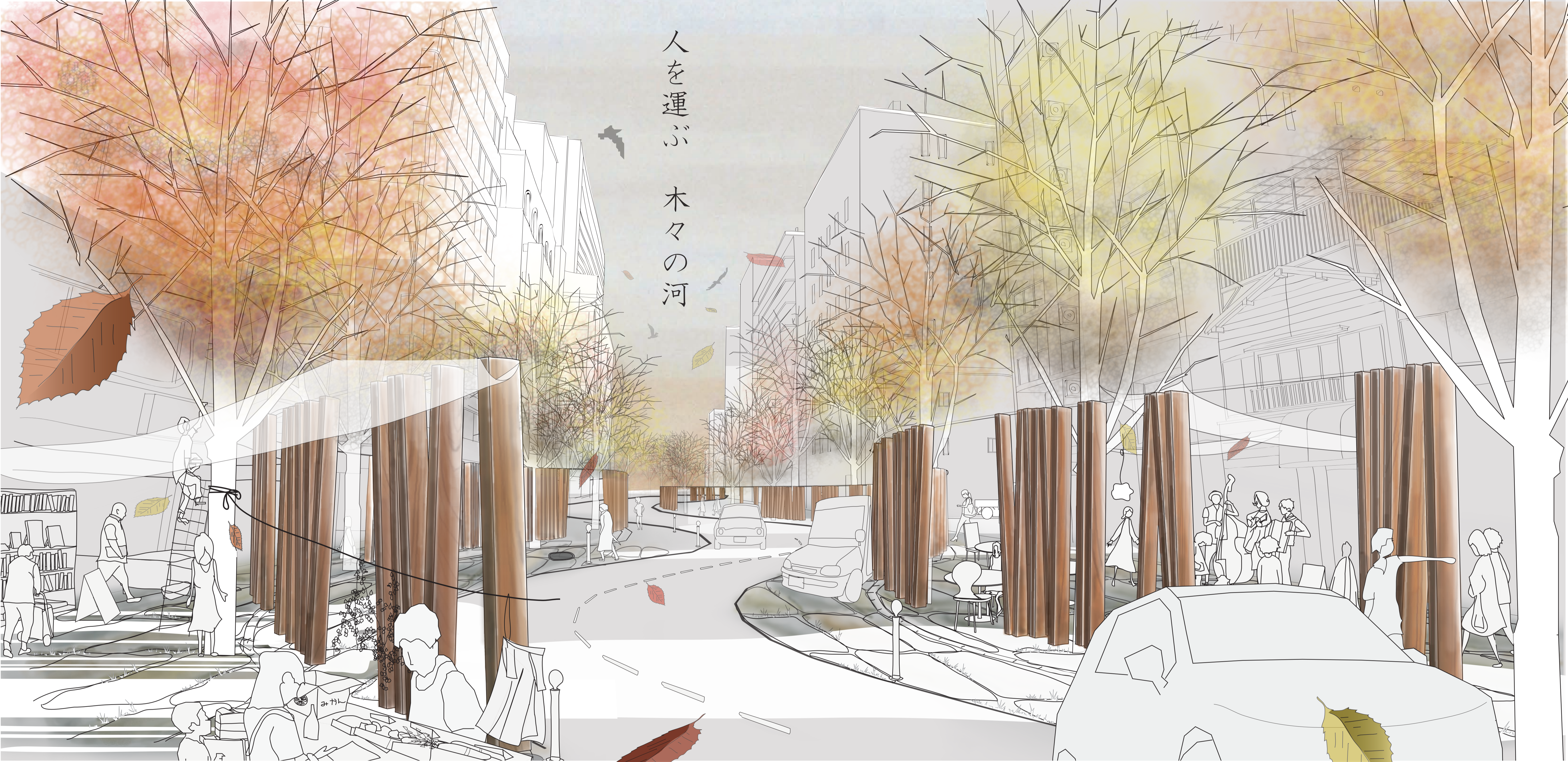


人を運ぶ
木々の河



1. 道は暮らしの一部 (車優先の道から歩行者も対等な道へ)

くねくね道

これまでの直線だった車道を、どんたく通りを縫うように曲げていく。それにより、小さなコミュニティスペースが交互にリズム良く生まれる。また、左右に曲がった車道は、車の速度を抑制する。

結びつきの強い小さな繋がり

歩道にできた複数の小さなパブリックスペースは、濃密な繋がりを生む。人々がそれぞれに過ごす時間は、この道で連続して繋がり、大きな賑わいとなってゆく。

2. 段差ではない、歩道と車道の分け方

歩道と車道の間にレールを敷き、長方形の角材を吊るしていく。角材はレール上に自由にスライドすることができ、どこからでも通り抜けできる。好きな場所に壁をつくり、好きな場所を解放する。

既存街並み

Detail

吹き降ろしビル風

歩道 停車スペース 車道

Section

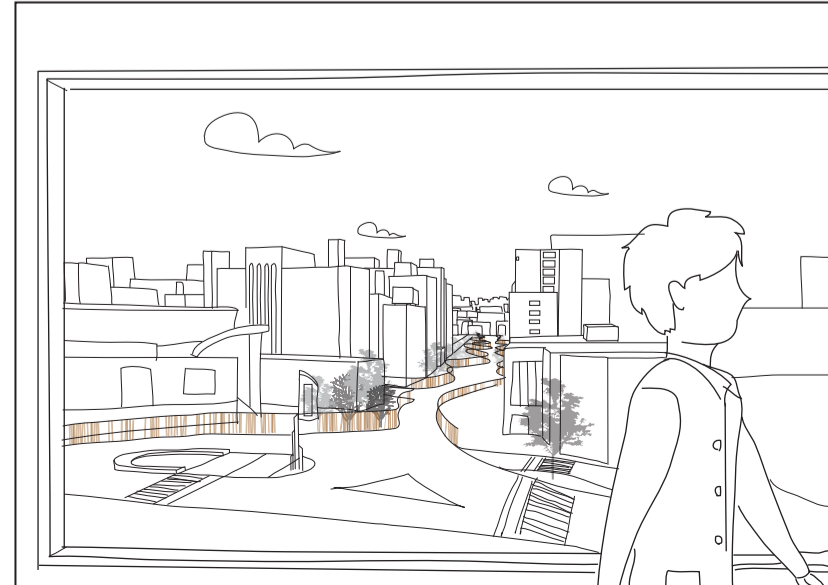
上下式車止め
歩行者天国などのイベント時の誘導を目的で、車道と停車スペースの間に車止めを設置する。

歩道の曲線に沿って耐湿、耐久性に優れたクスノキを植える。枝分かれが多く、巨樹となるため、雨、風、強い日差しから、歩行者を守る。

夏 Sunlight 冬 Sunlight

3. 駅前通りとしての災害に対する役割 (帰宅困難者の受け入れ)

図例のように、歩道のふくらみに、それぞれ壁をつくり、帰宅困難者の一時滞在場とする。隣接する建物で、帰宅困難者の受け入れが可能な場合は、そのまま建物へ誘導する。緊急車両は車道を通り、スムーズに対応する。



「木々の河は、人々を乗せて通りを流れ、町に潤いをもたらす。」

～人があつまる大井町駅前中央通りアイデアコンペ～

提案要旨説明書

■作品タイトル

人を運ぶ 木々の河

■提案要旨

大井町駅周辺には、建物が絶えず立ち並び、人々の憩いの場である公園や、本当の意味での広場は、とても少ないように感じます。昔の日本には、そのような場所が沢山あり、人が通る道もその役割りを果たしていました。現代では、インフラが整備され、いつしか車中心の道と言われるようになったのです。しかし、私たちにとって車は必要不可欠であり、欠かすことのできない存在であることは確かです。そこで、今ある道路の機能をできるだけ残し、双方が対等な関係でありながら、安全な道ができないかと考えました。

大井町駅前のように人を集める憩いの場として、水辺空間のある広場を設置することは、人を集め留めるために大きな役割りを果たすことは広く知られています。しかし、現実的に考えると、予算や維持管理など多くの問題が生じると考えられます。そこで、大井町駅から、どんたく通りに、自然の川のように日々違う表情を見せる「木々の河」を流れるように配置し、町に潤いを与えたいと考えました。年月を重ねるごとに風合いの増す自然素材を生かし、日常、災害時にも機能する駅前通りの計画を提案します。

※なぜこのような提案としたのかという理由や、特に工夫した点、アピールしたい点などを自由に記載してください。